



# 奈良県感染症情報

平成 31 年 第 5 週( 1 月 28 日～ 2 月 3 日)

奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)

<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(1 月)
- 保健研究センターだより 2 月「百日咳」

## ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	35.40	(41.51)	↗	↗	↗	↘
2	感染性胃腸炎	6.56	(8.18)	→	↘	↗	→
3	A群溶連菌咽頭炎	2.21	(2.00)	↑	↗	↑	→
4	咽頭結膜熱	0.35	(0.35)	→	→	↗	↘
5	手足口病	0.21	(0.18)	→	→	↘	↑↑

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↘やや減少**、**↘減少**

## ◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの流行警報発令中です。特に中和保健所管内東部地域では前週よりも増加しています。まれに急性脳炎を起こし重症化することがあり、県内では第 5 週だけでインフルエンザウイルス A 型による急性脳炎が 3 例、B 型によるものが 1 例報告されています。感染経路は咳やくしゃみからの飛沫感染と、飛沫の付着物に触れた手指を介した接触感染です。こまめな手洗いと咳エチケットを行い、感染予防対策に努めましょう。咳エチケットは特に電車や学校、職場など人が多く集まる場所で行うことが大切です。

A 群溶連菌咽頭炎の報告数が増加しています。中和保健所管内西部地域では、定点当たり報告数が 8.5 と高くなっており、警報開始基準値「8」を超えています。

## ◆ 病原体(ウイルス)検出情報(平成 31 年 1 月) ◆

\* ウイルス分離同日での集計結果

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
EB			1		伝染性単核球症(1)
RS		1			RS ウイルス感染症(1)
アデノ 2	1	1			咽頭結膜熱(1)、アデノウイルス咽頭炎(1)
アデノ 3		1			インフルエンザ疑い(1)
アデノ 5		1			急性気管支肺炎(1)
インフルエンザ AH1pdm09	5	10	2		インフルエンザ(14)、インフルエンザ疑い(3)
インフルエンザ AH3	1	2			インフルエンザ(3)
エコー 11	1				脳炎(1)
コクサッキーA群 4	1				感染性胃腸炎(1)
コクサッキーA群 6		2			感染性胃腸炎(1)、手足口病(1)
コクサッキーA群 10		1			手足口病(1)
水痘・帯状疱疹		1			水痘・無菌性髄膜炎(1)
ノロ GI.4		1			感染性胃腸炎(1)
ノロ GII.2		1			感染性胃腸炎(1)
ノロ GII.4		1			感染性胃腸炎(1)
ヘルペス 6B		1			急性脳炎(1)
ライノウイルス	5	2			鼻咽頭炎(3)、A群溶連菌咽頭炎(1) 扁桃炎(1)、インフルエンザ疑い(1) ヘルパンギーナ・A群溶連菌咽頭炎(1)
ライノウイルス A	1	3			発疹症(2)、肝障害(1) 発疹症・突発性発疹疑い(1)
ライノウイルス C		2			感染性胃腸炎(1)、手足口病(1)

◆定点把握感染症報告状況◆

平成 31 年 第 5 週 1 月 28 日 ~ 3 日

保健所別報告数	奈良県		北部		中部		南部	
	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	内吉野	吉野		
インフルエンザ定点数	55	14	14	11	10	2	4	
インフルエンザ	1947 (35.40)	420 (30.00)	514 (36.71)	485 (44.09)	415 (41.50)	31 (15.50)	82 (20.50)	
小児科定点数	34	9	9	7	6	1	2	
RSウイルス感染症	6 (0.18)		1 (0.11)	3 (0.43)	2 (0.33)			
咽頭結膜熱	12 (0.35)	2 (0.22)	3 (0.33)	2 (0.29)	5 (0.83)			
A群溶連菌咽頭炎	75 (2.21)	13 (1.44)	4 (0.44)	5 (0.71)	51 (8.50)		2 (1.00)	
感染性胃腸炎	223 (6.56)	35 (3.89)	47 (5.22)	63 (9.00)	69 (11.50)	3 (3.00)	6 (3.00)	
水痘	4 (0.12)	2 (0.22)	1 (0.11)	1 (0.14)				
手足口病	7 (0.21)	1 (0.11)	2 (0.22)		1 (0.17)		3 (1.50)	
伝染性紅斑	1 (0.03)	1 (0.11)						
突発性発しん	6 (0.18)	1 (0.11)	1 (0.11)		4 (0.67)			
ヘルパンギーナ	1 (0.03)			1 (0.14)				
流行性耳下腺炎								
眼科定点数	10	3	3	2	2	0	0	
急性出血性結膜炎								
流行性角結膜炎	1 (0.10)		1 (0.33)					
基幹定点数	6	1	2	1	1	0	1	
細菌性髄膜炎								
無菌性髄膜炎								
マイコプラズマ肺炎	2 (0.33)		1 (0.50)		1 (1.00)			
クラミジア肺炎								
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)								

◆全数把握感染症報告状況◆ ( )は保健所別内訳

1類感染症	
2類感染症	結核2件(中和1、郡山1)
3類感染症	
4類感染症	
5類感染症	急性脳炎4件(奈良市2、郡山2) 梅毒2件、(奈良市1、郡山1) 百日咳2件(奈良市1(78歳)、中和1(17歳)) 風しん1件(中和1)

◆第5週のトピックス◆

◆風しんの追加的対策について(厚生労働省)

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/index\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/index_00001.html)

※平成27年2月16日より桜井保健所と葛城保健所は統合され中和保健所となりました。旧桜井保健所分は中和(東)、旧葛城保健所分は中和(西)として集計しています。

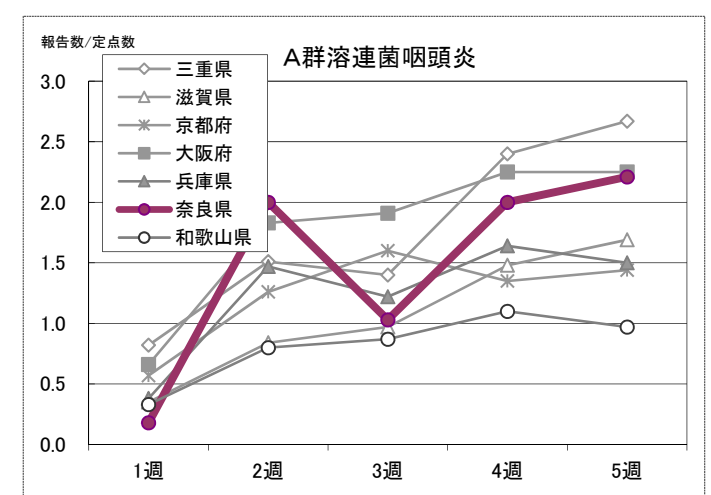
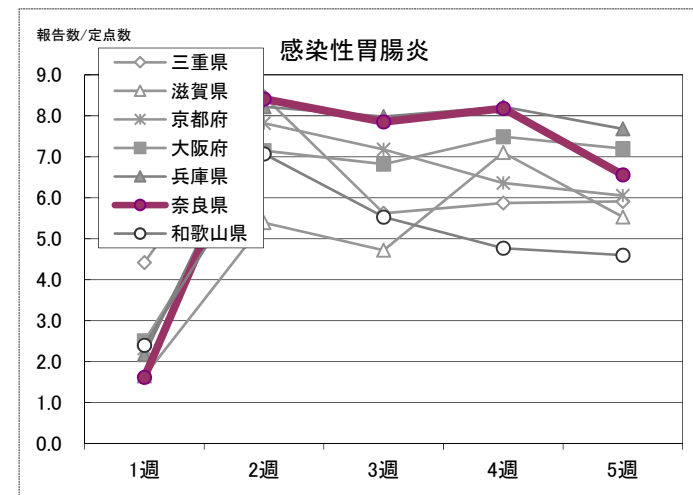
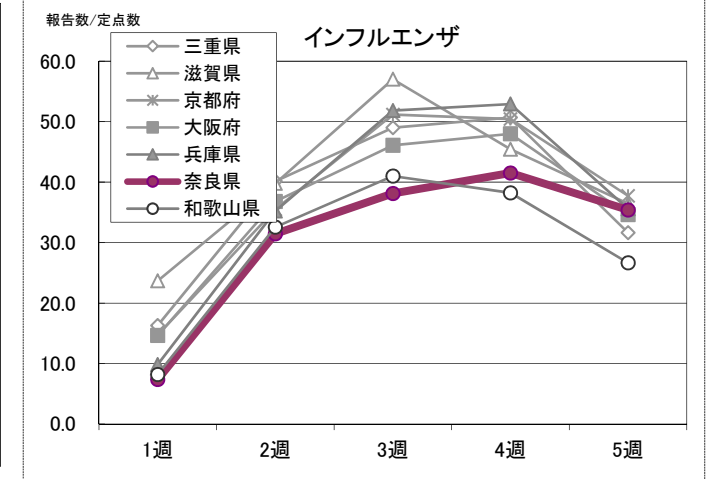
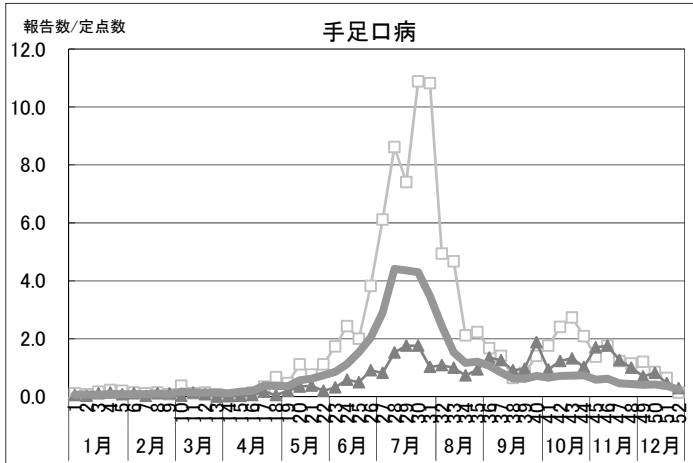
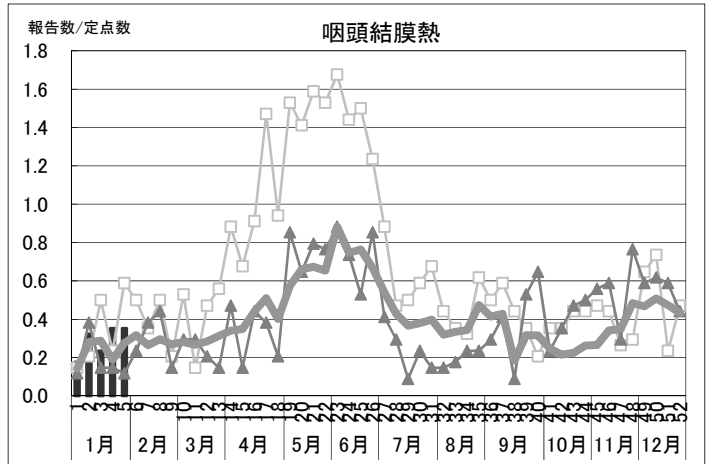
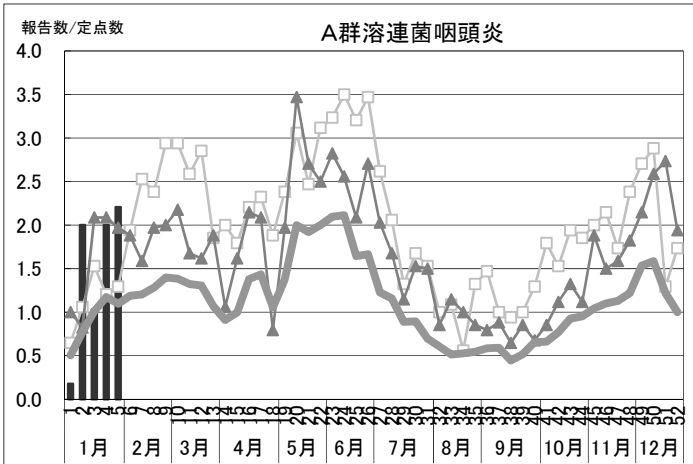
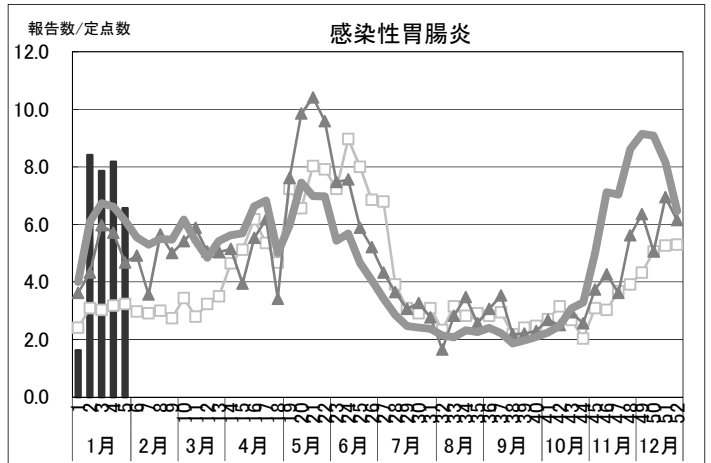
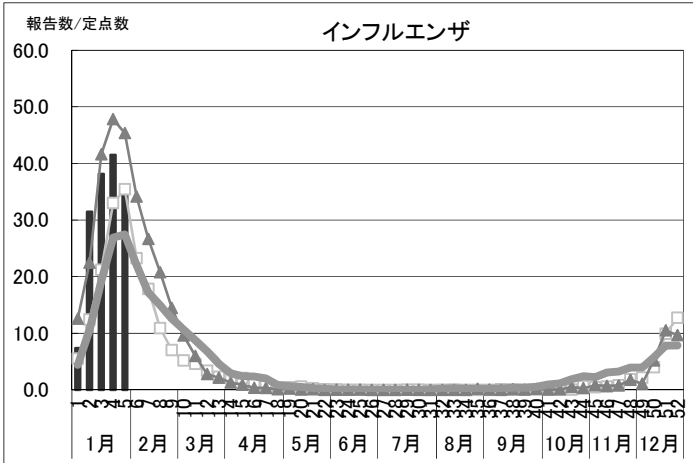
上段 : 報告数  
(下段) : 定点当たり報告数 報告数÷定点数

年齢別報告数

年齢区分	年齢	0-5M	6-11M	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-	合計	累計
インフルエンザ	男	6	2	39	46	44	57	77	81	53	53	37	164	47	45	48	42	51	35	27	11	965	4196
	女	6	8	39	33	48	47	59	59	43	49	37	147	37	61	71	74	62	50	25	27	982	4267
RSウイルス感染症	男			1		1					1											3	26
	女	1	1				1															3	31
咽頭結膜熱	男			3	3		1															7	31
	女		1		3		1															5	18
A群溶連菌咽頭炎	男		1	2	4	5	9	5	5	4	4		3									42	131
	女			4	3	6	1	5	4	3	2	3	1	1								33	121
感染性胃腸炎	男		14	19	11	10	7	6	12	6	5	1	8	2	13							114	576
	女	1	5	21	9	10	15	6	7	7	1	3	8	3	13							109	533
水痘	男										1											1	29
	女			1						1			1									3	19
手足口病	男		2	1			1															4	14
	女			2	1																	3	14
伝染性紅斑	男			1																		1	13
	女																						10
突発性発しん	男		1	1		1																3	31
	女		2	1																		3	19
ヘルパンギーナ	男				1																	1	3
	女																						2
流行性耳下腺炎	男																						2
	女																						4
急性出血性結膜炎	男																					1	19
	女				1																		10
細菌性髄膜炎	男																						1
	女																						1
無菌性髄膜炎	男																						1
	女																						1
マイコプラズマ肺炎	男			1																		1	3
	女				1																	1	6
クラミジア肺炎	男																						
	女																						
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	男																						
	女																						

❖注目疾患の動向❖ 全て定点当たり報告数

■ H31 ▲ H30 □ H29 〰 過去10年平均



## － 百日咳について －

百日咳は、平成 30 年 1 月 1 日より 5 類定点把握疾患から全数把握疾患になりました。全数把握疾患に変更されたことにより、定点医療機関を受診しない小児の発生状況や小児以外の年齢層も含めた発生動向の把握が可能となりました。全数把握対象疾患となり 1 年が経ち、みえてきたこと、また奈良県における百日咳の発生状況について報告します。

### ▶ 百日咳とは

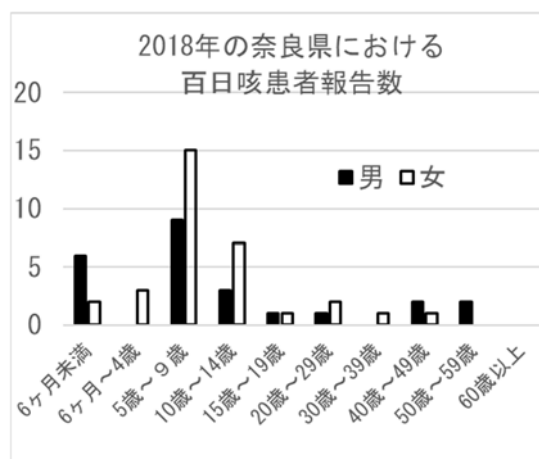
百日咳は、特有のけいれん性の咳発作を特徴とする急性の呼吸器感染症です。いずれの年齢でも感染しますが、1 歳未満の乳児、特に生後 6 ヶ月未満の乳児は重症化しやすく死亡者の大半を占めます。成人は軽症で済むことも多いですが、乳児にとっての感染源となるため注意が必要です。予防法としては、ワクチン接種があり、接種時期は生後 3～12 ヶ月の間に 20～56 日の間隔を空けて、3 回接種します。その後 6 ヶ月以上（標準的には 12～18 ヶ月）の間隔において 1 回接種します。家族に患者が出た場合、ワクチン接種を行っていないければ 90%が家族から感染してしまうとされています。

### ▶ 全数把握疾患になり、みえてきたこと

- ・百日咳は、小児だけでなく全年齢層に患者が存在すること
- ・予想していたよりも報告数が多いこと
- ・6 ヶ月未満の乳児は、やはり家族が感染源となっており、特に同胞からの感染が多いこと
- ・三混あるいは四混ワクチンを 4 回接種していても 5 歳頃から患者が増えていること

### ▶ 奈良県の状況

奈良県における報告数は、2018 年の 1 年間で 56 例ありました（年齢層別報告数は右図に示す）。最も報告数が多かった年齢層は 5～9 歳であり、24 例中 22 例が 4 回のワクチン接種を行っていました。また重症化リスクが高いとされる 6 ヶ月未満の乳児の報告は 8 例あり、感染経路は、家族内感染が 5 例、不明が 3 例でした。家族内感染は同胞から 2 例、母親から 1 例、母親及び同胞から 1 例、祖母及び叔母から 1 例でした。



### ▶ まとめ

百日咳が全数把握疾患となり、報告数は予想していたよりも多いとされています。しかし、たった 1 年の状況であるため、これが標準的であるのか流行年であったのか現時点ではわかりません。今後の継続したサーベイランス調査により把握できると考えられています。サーベイランス調査から得られることは多く、百日咳はワクチン接種を行っていても 5 歳頃から患者は増えており、現在のワクチンだけでは根本的な予防には不十分であることが分かってきました。そのため接種時期や追加接種などの検討が始められています。現状では、ワクチン接種に加えて咳エチケットなどの飛沫感染予防策も実施するなど、様々な対策を組み合わせる必要があります。特に重症化しやすい乳児のいるご家庭では、周りに患者が発生した場合は患者と乳児をできるかぎり近づけないなどの対応をとることも大切です。

(奈良県感染症情報センター)